

ドゥーラ・シンポジウム

市立伊東市民病院

院長 荒堀憲二

妊産婦死亡に至る 3段階の遅れ

1st Delay: 自宅やCommunityでの気づきの遅れ

2nd Delay: 医療施設への搬送の遅れ

3rd Delay: 医療施設に到着後、治療が行われる
までの遅れ

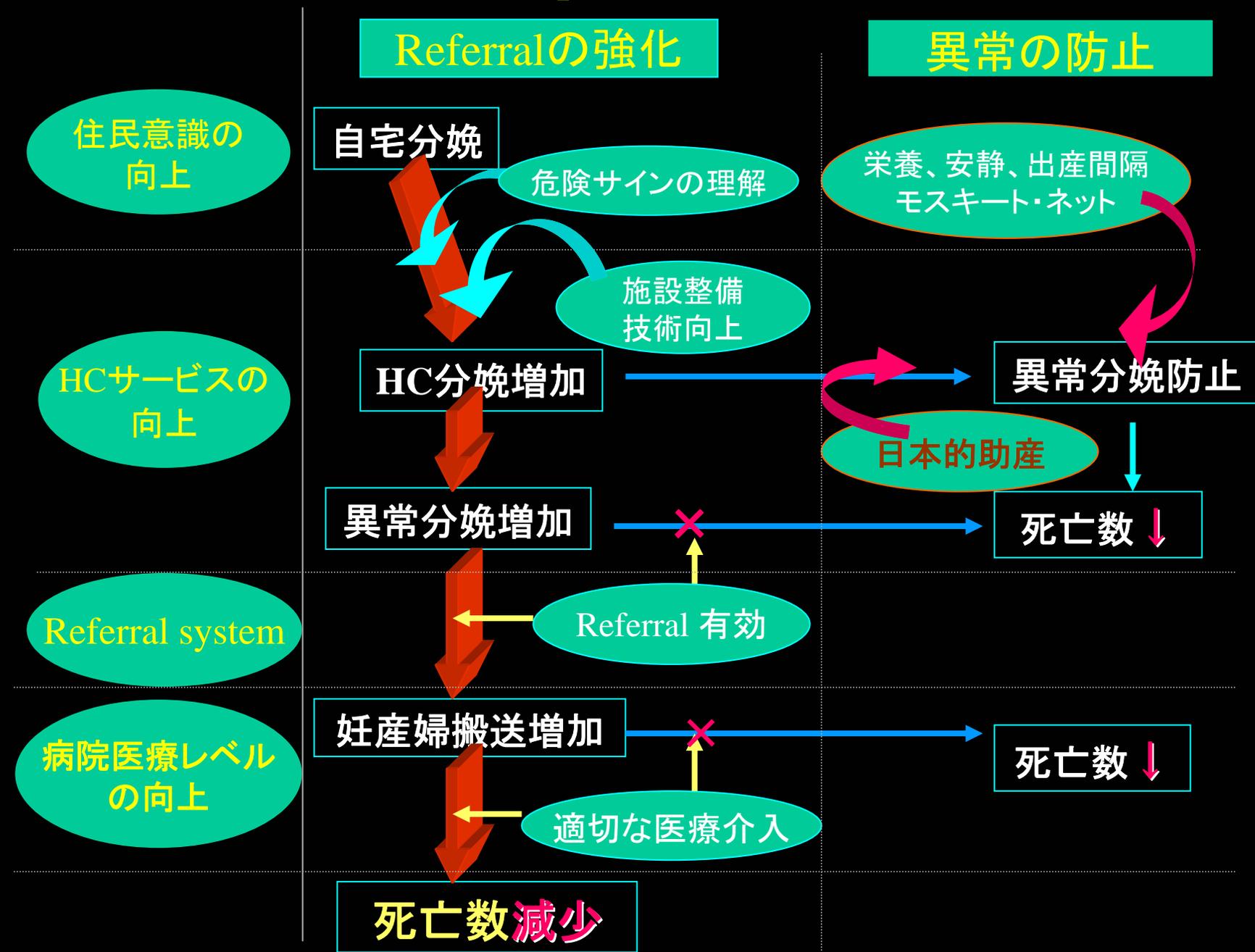


BORベッド占有率190%

床にも時には外にも



図6 MMR低減へのroad map 3



途上国の看護職は冷たい？

- 医師不足のため看護師はミニドクタ
- ケアに手が回らず放ったらかし

家族に優しく患者に冷たいナース

不安が遷延分娩などを引き起こす

持続的精神的サポートの効果

Doula 効果

- オキシトシン使用の頻度低下 (0.44)
- 鉗子分娩頻度低下 (0.46)
- 帝王切開頻度の低下 (0.54)
- 分娩時間短縮 (2.8時間)
- 産婦の満足度上昇

(meta-analysis By Jun Zhang 1996)

TBAはなぜ人気があるか？

- 持続的でEmotionalなサポートを行う
- 地域に密着している
- トータルなケアを行う
- ときにSpiritualな存在である



産婦とともにある存在



日本の産婆さん

日本はTBAを産婆として残しつつ
100年かけて近代的な看護職
能者に変えていった

日本的助産の技術移転を

暴力家庭に育った子どもは

- ・ 内的外的行動問題が増える
- ・ 社会適応性がひくい
- ・ 自尊感情がひくい
- ・ 共感性がひくい
- ・ 気むずかしい

虐待と関連して見られる精神障害

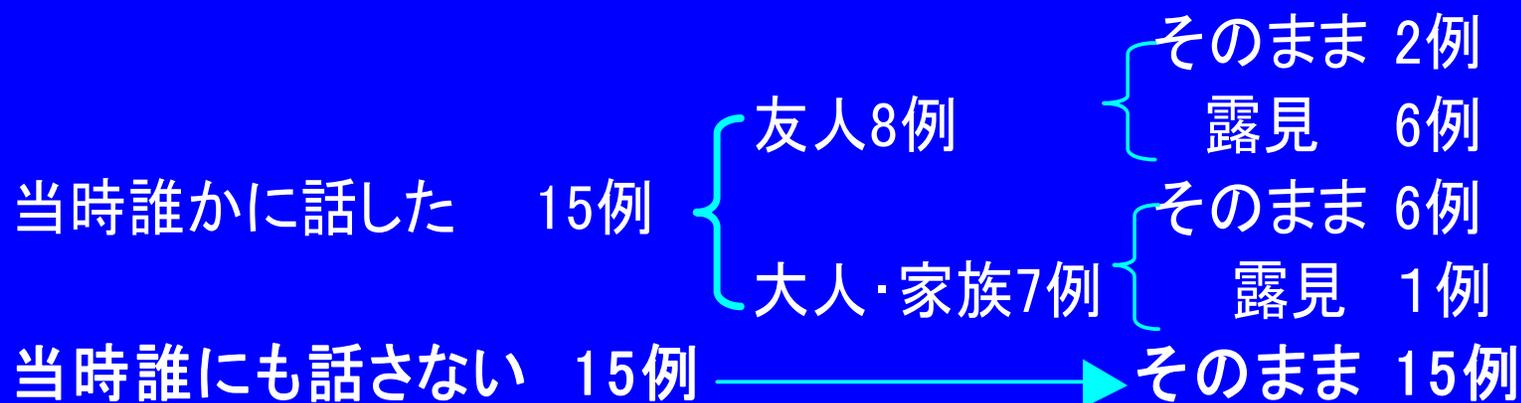
- 反応性愛着障害
- 注意欠陥・多動障害
- 反抗・挑戦性障害
- 行為障害

重症虐待の頻度

身体虐待	数	%	%(全体)	性虐待	数	%	%(全体)
重症	25	44.6	<u>27.7</u>	重症	30	45.5	<u>33.3</u>
軽症	31	55.4	34.4	軽症	36	54.5	40.0
合計	56			合計	66		

- 重症な身体虐待25例は身体虐待中44.7%、調査対象者全体の27.7%
- 重症な性虐待30例は、性虐待中42.9%、調査対象者全体の33.3%

重大な性虐待の露見(7/30例)



30例中23例が未だに露見していない。

大人への告白は救済に結びつき難いようだ。

女性受刑者は高頻度に虐待を受けている！

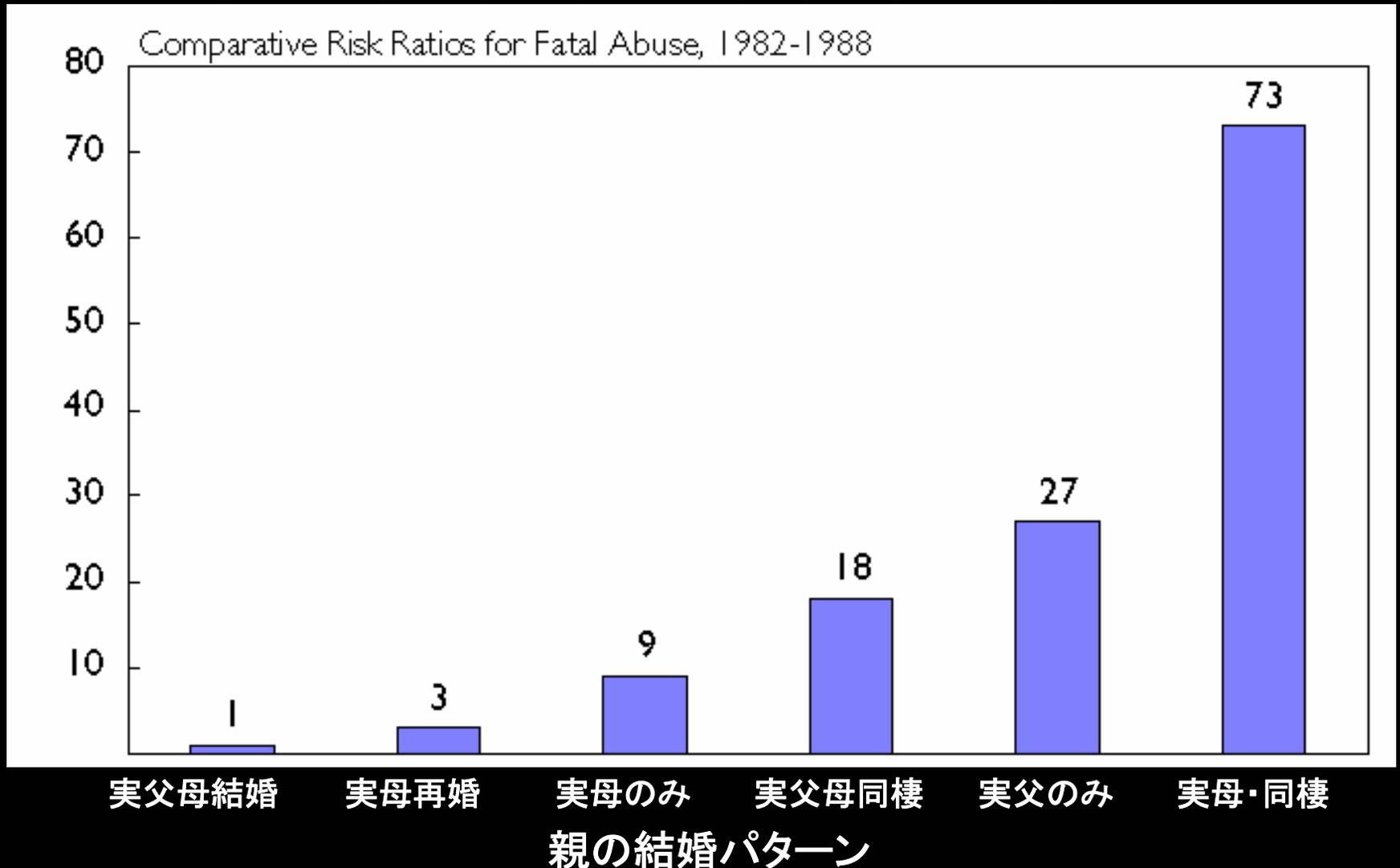
- 女性の新入所者90名を対象に子供時代の虐待について調査したところ、66名(73.3%)に性被害を認め、そのうち重大なもの(性虐待)は30名(33.3%)。
- 加害者は、身内や子供の良く知っている大人や年上の男子であることが多い
- 性虐待の被害者は周囲に訴えないし、告白しても救済には結びつき難い。
- 性被害の長期影響として、恐怖7、性的不全5、精神科3、心理・行動面での問題などが認められた
- 今後社会ならびに専門家による虐待への気づきと24時間支援センターの設置が急務である

家庭内暴力：子どもへの影響

1. 心理行動問題
2. 精神障害
3. 犯罪への関与

結婚形態と虐待死

実母同棲家庭は実父母結婚家庭の73倍



Cycle of Violence

虐待
不良な養育



学校不適応
居場所なし



暴力
犯罪

自己評価↓
抑うつ傾向
不安
身体化症状
気分変動
社会スキル未熟

非行・家出
STD感染
自傷自殺
売春



ドゥーラ効果への期待

